

## キヤノン株式会社

### 2022年第2四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

- Q1. 2023年に向けての外部環境の見方と、今後のキヤノンの成長の持続性について教えてください。**
- A1.** サプライチェーン分断等により起こったモノ不足によるインフレは、今後世界中の生産が順調に回復したとしても、自然に収まるまでにはさらに1年くらいかかるとみている。当社は事業ポートフォリオを転換し、さらなる製品強化のための投資も積極的に行っており、成長を続けていけると考えている。
- Q2. メディカルにおいてCTのサービス収入が伸びた背景と、今後の見通しを教えてください。**
- A2.** 昨年日本でCTが多く売れたことで設置台数が増加し、サービス収入も増やすことができた。現在画像診断ではCT、MRI、超音波などを手掛けているが、その中でもCTの世界シェアNo.1実現に向けて着実に手を打っており、今後の業績拡大に貢献していく。
- Q3. 半導体設備投資の減速懸念があるが、2023年の半導体露光装置の需要をどうみているのか。**
- A3.** 現在の半導体不足の状況、そして今起きている技術革新の状況を踏まえると、高い需要は続くと考えている。従って、当社については増産のための投資を続け、今後生産能力を最低でも50%アップする計画を立てている。
- Q4. ナノインプリントはいつ事業として立ち上がるのか。**
- A4.** 製品としては出来上がっており、現在顧客要望に合うよう調整を行っている段階である。従来の露光装置と比べ大きなコスト削減が期待できるため、需要も大きいと考えており、2025年にはある程度の販売ボリュームを見込んでいる。
- Q5. カメラ市場の今後の見通しを教えてください。また、ミラーレスと一眼レフ両方の提供を続けていくのか。**
- A5.** カメラ市場は現在の規模で概ね底を打っていると考えている。今後プロやハイアマの世界はさらに広がり、製品もより高度に進化し、全体として成長を続けていくと考えている。一眼レフについては需要がある限り提供を続けていく。
- Q6. 中国政府が、オフィス機器の設計・製造を中国国内で実施するよう規制をかけるとの報道があったが、今後のオフィス機器の生産体制をどのようにしようと考えているか。**
- A6.** 報道内容は中国政府の公式発表ではないと理解しており、現時点で回答できることはない。中国は重要なマーケットではあるため、今後も注視していく。